

▲「これからもラーメンは続けたい」と話す 遠藤さん

営業していた時と勝手が違うこと 保が難しいそうです。他にも、 て、村で営業していた時よりも値段 部分もあります。こちらに合わせ うです。「移転しての営業は厳しい にないため、車で来るお客さんの確 を身にしみて感じることもあるそ ただ、今の店舗は駐車場が近く 村で

夜にお店を開けていますが、この辺

ンの提供はやめずにこの味は守って 客さんがいらっしゃるので、ラ 業を中心にしたいと考えていま ので、福島市内に移転し、夜の営 の場所での営業はなかなか難しい りは飲み屋さんが多いので、昼より いきたいです」と話していました。 す。それでも、『エンドー も夜の営業がメインですね」。 これからの営業については、「今 メンが忘れられない』というお 食堂のみそ

「村にいた時から食べていたからね」 伊達市に避難している寺島美世さん(佐須)

病院に行っ た帰り道で 時々利用して います。最初 の頃は一人で はなかなかお



す。「初めの3か月は村の人が懐か たくさんの村民が来店したそうで

しがってたくさん来てくれました

ね。中には遠くから来てくれた方

もいました」。

店に入れなかったけれど、孫と一緒に来 店してから一人でも入れるようになりまし た。お店の前を通るたびに、おいしそうな 匂いがしていたので、食べたくって。やっ ぱり、地元のお店はいいですね。村にい た時から食べていたから、ここに来るとみ そラーメンが食べたくなります。

ラーメン居酒屋 味処エンドー

伊達市保原町6丁目4 024-576-7083

11:00~14:00, 17:00~22:30



どを見ながら対

策をしていく予

民意向調査な

村についての住

村が行う帰

の課題がありま

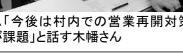
村商工会に聞きました

経営指導員 木幡昌博さん

の補助金などの支援事業や融資などの紹介を を受けて村外の空きテナントの情報提供や県 ました。 損害賠償の請求のお手伝いや交渉などを行い してきました。そのほか、商工会として東電への 避難先で営業を再開した事業所へは、相談

けての支援など 確保や水や食材への風評被害対策、 経営者もいます。今後は、そういった帰村に うになったら村内で営業したいという飲食店 なかには避難先では再開せず、村に戻れるよ んが、村内での営業再開に対し、お客さんの いつ村内に戻れるようになるかは分かりませ 行っていくようになっていきますね。飲食店が 向けた村内での営業再開を見越した対応を 再開希望の飲食店はほぼ開店しましたが、 再開に向

▲「今後は村内での営業再開対策 が課題」と話す木幡さん



伊達市で営業を再開している「味処工シドー」の遠藤さん夫婦

▲「みそラーメン定食 レディースセット」は650円 でこのボリューム! 一番 人気は「みそラーメン定 食」800円。



メンは村民

みんな大好き こってりみそラーメンは健在 ラーメシ居酒屋味処エンドー

のご案内

しています。その中で、飲食店は、福島市に3店舗、伊達市に1店舗、相休業をしいられましたが、一部の事業所は、村外の移転先で営業を再開

東日本大震災及び原発事故による全村避難のため、村内の商工業も

2

馬市に1店舗が村外で営業を再開しています。

たじまやつない時期的 たり子信号様子前 Pみなた前内ない いまででしょう。

らっしゃいまか

味処エンド・

- 」。お店を営む遠藤利

で営業を再開した「ラーメン居酒屋

平成23年9月に伊達市保原町

空きテナントを紹介してもらったの 会に相談しました。商工会の方で 業を再開するまでは、見守り隊で でした。 たこってり味のみそラー 正さんにお話をうかがいました。 を再開させるために、役場や商工 働いたこともあったそうです。「店 宅に入居し、現在の移転先での営 使った牛丼や焼肉定食などが好評 から愛される味。また、飯舘牛を んでいた遠藤さん。にんにくの効い 震災後は、福島市の借り上げ住 震災前は、草野地区で食堂を営

成23年9月27日。オープン当初 開店することが出来たのは平

が今の場所です」。

▲店内にはカウンターと座卓が並びます

平成25年6月号 広報 いいたて 広報 いたて 平成25年6月号